

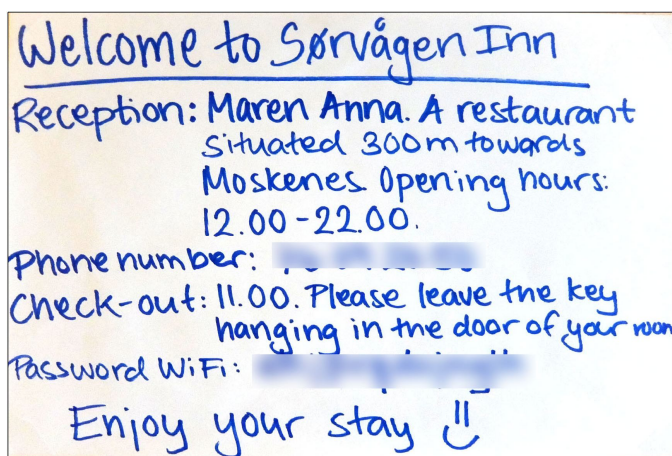
「北極圏旅行記2017夏(19)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/29 スールヴォーゲンの滞在～

この日はÅ村の村内か、レイネに宿泊したかったのだが、夏の観光シーズンでもあり、どこも満室だった。幸いÅ村とレイネの間にある、**Sørvågen** (スールヴォーゲン) という村にあるコンドミニウムに空室があり、予約を入れることができた。



これが **Sørvågen inn** (スールヴォーゲン・イン) という滞在先だ。こうした宿泊施設では、通常専用のチェックインはない。私は1階がフロントだと思ったが、普通の企業で「ホテルは2階だよ」と言われてしまった。今回はこんな宿ばかり泊り歩いたので、こういうことが多かった。



2階にも受付らしきものはなく、玄関を入ると、ノルウェー語と英語のこんな張り紙がしてあった。どうやた、近くのレストランでチェックインするらしい。(あとで宿から来たメールを確かめたら、このことが

ちゃんと書いてあった) チェックアウトは「勝手に帰ってね」って感じた。Maren Anna (マレン・アンナ) というレストランは、すぐに見つかった。漁港にある海鮮料理のレストランで、気にいったので、夕食の予約もしておいた。レストランのレジでキーを受け取り、さっそく宿舎に入ることにした。



大きなホテルとちがって、部屋のすぐ目の前に車を止められるのが嬉しい。私の部屋は玄関の右側の、非常に景色の良い部屋だった。



部屋はそれほど広くはないが、清潔で機能的だ。ツインの部屋だが、ベッドを動かしてダブルにもできる。この日は「一人一部屋」予約して、この部屋で羽を伸ばすことができた。

部屋には最低限のリネン(シーツ、枕カバー、タオル類、シャンプー、石けんなど)しか置いてない。余計なものもなく、ベッドメイクもセルフサービスが基本だ。専用のレセプションも、受付係もない。その分宿泊費は安く、私のような「自由旅行者」には、大変有難い存在だ。シャワールームも使いやすく、清潔で、滞在は快適だった。



窓からはこんな景色が見える。夏のロフォーテンの風景を、自室から眺められるのは、大変気持ちが良い。湖畔にはララローセン（ヤナギラン）の花がたくさん咲いている。



歩いて2分の国道沿いに、小さなスーパーがあり、大抵の食材や日用品は手に入り、非常に便利だ。



玄関の目の前の駐車場は、トレール（遊歩道）の入口になっていて、ちょっとした散策にちょうど良い。リュックを背負った人もたくさん通ったので、トレッ

キングコースの入口なのだろう。次回は歩いてみたいと思った。



真ん中に小屋のある、面白い橋もあった。絵になる風景が、あちこちにある、ここに2～3泊すればよかったですと後悔した。



それぞれの部屋にキッチンはないが、玄関近くに教養のキッチンがある。冷蔵庫には、宿泊者が置いていった食材がたくさんあって、自由に使える。



たとえば朝食はこんな感じ。ノルウェーの朝食は、普通トーストとコーヒー程度だ。しかし我々は非常に豪華な朝食を楽しんだ。